

岩手県感染症週報

令和2年第2週（1月6日～1月12日）

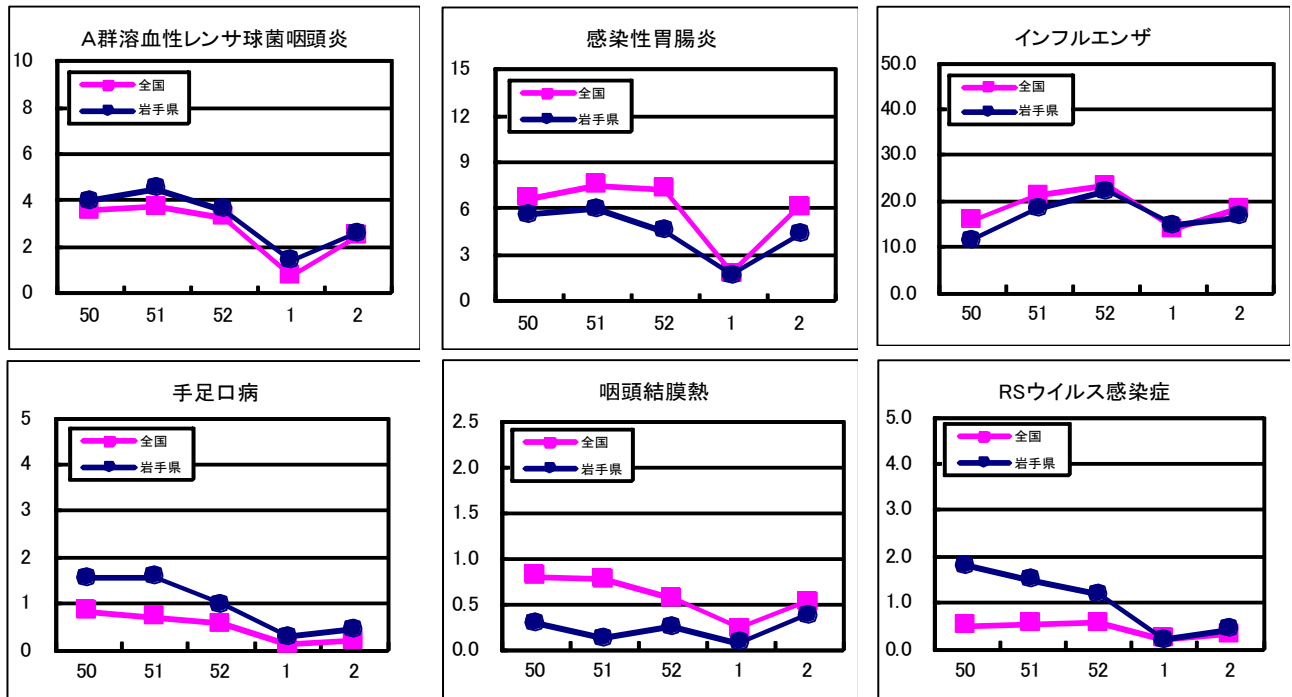
岩手県感染症情報センター

第2週の概要

- 1類感染症 ・患者発生の報告はありませんでした。
- 2類感染症 ・結核の報告が2例ありました。
- 3類感染症 ・患者発生の報告はありませんでした。
- 4類感染症 ・患者発生の報告はありませんでした。
- 5類感染症（全数把握対象疾患）
 - ・アメーバ赤痢の報告が一関地区から1例ありました。患者は60歳代の男性です。
 - ・劇症型溶血性レンサ球菌感染症の報告が県央及び奥州地区から1例ずつありました。患者はそれぞれ、60歳代の男性と80歳代の男性です。
 - ・百日咳の報告が中部、奥州及び釜石地区から1例ずつありました。患者はそれぞれ40歳代の男性2名と9歳の男児です。
- 5類感染症（定点把握対象疾患）
 - ・インフルエンザは、県内すべての地区で注意報値（定点あたり患者数10人）を超えました。新学期が始まり、学校等閉鎖措置が報告されています。ウイルスは発症前日から発症後3～7日間排出されると言われています。発熱等の症状がある場合は、登校や出勤を無理にせず医療機関を受診してください。また、症状の有無に関わらず、人混みへの外出を控えること、普段からの咳エチケットや手洗い等の感染対策が重要です。
 - ・感染性胃腸炎は、ノロウイルスによる集団感染事例の報告が4件ありました。集団生活を営む施設では、感染予防対策の再確認が必要です。石けんと流水による手洗いを徹底すること、患者の吐物や便を処理する際は、使い捨て手袋やマスクを着用し、塩素系薬剤を使用することが重要です。
 - ・溶連菌咽頭炎は、発熱、全身倦怠感及び咽頭痛を主症状とし、例年この時期から報告が増加するため注意が必要です。手洗いやうがい、患者との濃厚接触を避けることが重要です。

最近の注目疾患（定点あたり患者数の過去5週の動き）

（疾患によって目盛りのスケールが違うことに注意）



定点把握対象疾患（過去5週の動き）

報告週対応表 <http://www.nih.go.jp/niid/ja/calendar.html>

※2018年1月1日より百日咳が5類感染症（定点把握疾患）から5類感染症（全数把握疾患）へ変更されました。
 ※2013年第42週より感染性胃腸炎（ロタウイルス）が定点把握対象疾患となりました。

（定点あたり患者数）

疾病名	地域	週					流行傾向	
		50	51	52	1	2		
インフルエンザ	岩手県	11.39	18.24	22.06	14.64	16.55	→	☆
	全国	15.62	21.22	23.24	13.93	18.33		
RSウイルス感染症	岩手県	1.80	1.49	1.17	0.20	0.41	→	☆
	全国	0.51	0.54	0.56	0.22	0.32		
咽頭結膜熱	岩手県	0.29	0.12	0.24	0.07	0.37	↗	☆
	全国	0.80	0.77	0.56	0.22	0.52		
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	岩手県	3.98	4.51	3.61	1.37	2.56	↗	☆
	全国	3.55	3.72	3.28	0.74	2.44		
感染性胃腸炎	岩手県	5.59	5.93	4.54	1.63	4.27	↗	☆
	全国	6.60	7.46	7.25	1.80	6.09		
水痘	岩手県	0.51	0.37	0.37	0.24	0.37	→	☆
	全国	0.68	0.63	0.62	0.32	0.65		
手足口病	岩手県	1.54	1.56	0.98	0.27	0.44	→	☆
	全国	0.83	0.70	0.57	0.12	0.20		
伝染性紅斑	岩手県	0.22	0.24	0.49	0.12	0.54	↗	☆☆
	全国	0.61	0.63	0.58	0.17	0.63		
突発性発疹	岩手県	0.44	0.39	0.51	0.15	0.39	↗	☆
	全国	0.36	0.33	0.34	0.10	0.32		
ヘルパンギーナ	岩手県	0.12	0.10	0.10	0.00	0.00	→	
	全国	0.08	0.07	0.07	0.01	0.03		
流行性耳下腺炎	岩手県	0.05	0.07	0.05	0.05	0.02	→	
	全国	0.07	0.08	0.06	0.02	0.06		
急性出血性結膜炎	岩手県	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	→	
	全国	0.01	0.01	0.02	0.00	0.01		
流行性角結膜炎	岩手県	0.21	0.43	0.50	0.07	0.43	↗	☆
	全国	0.59	0.64	0.61	0.25	0.67		
細菌性髄膜炎	岩手県	0.05	0.00	0.00	0.00	0.00	→	
	全国	0.03	0.01	0.04	0.01	0.02		
無菌性髄膜炎	岩手県	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	→	
	全国	0.04	0.04	0.03	0.01	0.02		
マイコプラズマ肺炎	岩手県	0.11	0.00	0.11	0.00	0.16	→	☆
	全国	0.44	0.47	0.36	0.16	0.44		
クラミジア肺炎（オウム病を除く）	岩手県	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	→	
	全国	0.00	0.01	0.01		0.00		
感染性胃腸炎（ロタウイルス）	岩手県	0.00	0.00	0.05	0.00	0.00	→	
	全国	0.01	0.01	0.02	0.02	0.02		
インフルエンザ（入院患者） ※報告数であることに注意	岩手県	5	26	34	30	33		
	全国	861	1195	1436	1404	1,651		

【流行傾向の見方】

- 無印：ほとんど患者が発生していません
- ☆：患者が発生しています
- ☆☆：警報値を超えた地区が1～2地区あります
- ☆☆☆：多くの地区で警報値を超えています

全数把握対象疾患 (過去5週の動き)

※ジカウイルス感染症が2016年2月15日から四類感染症に追加されました。

(患者発生数)

分類	疾病名	(週)					累計	全国	
		50	51	52	1	2		2	累計
一類 感染症	エボラ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	クリミア・コンゴ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	痘そう	0	0	0	0	0	0	0	0
	南米出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	ペスト	0	0	0	0	0	0	0	0
	マールブルグ病	0	0	0	0	0	0	0	0
	ラッサ熱	0	0	0	0	0	0	0	0
二類	急性灰白髄炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	結核 () 内は潜在性結核感染症患者再掲	2 (1)	2 (2)	4 (1)	0 (0)	2 (0)	2 (0)	352	388
	ジフテリア	0	0	0	0	0	0	0	0
	重症呼吸器症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	中東呼吸器症候群 (MERS)	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ (H5N1)	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ (H7N9)	0	0	0	0	0	0	0	0
三類	コレラ	0	0	0	0	0	0	1	1
	細菌性赤痢	0	0	0	0	0	0	1	1
	腸管出血性大腸菌感染症	0	1	0	0	0	0	15	19
	腸チフス	0	0	0	0	0	0	1	1
	パラチフス	0	0	0	0	0	0	0	0
四類 感染症	E型肝炎	0	0	0	0	0	0	8	9
	ウエストナイル熱 (ウエストナイル脳炎を含む)	0	0	0	0	0	0	0	0
	A型肝炎	0	0	0	0	0	0	5	9
	エキノコックス症	0	0	0	0	0	0	0	0
	黄熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	オウム病	0	0	0	0	0	0	0	0
	オムスク出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	回帰熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	キャサナル森林病	0	0	0	0	0	0	0	0
	Q熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	狂犬病	0	0	0	0	0	0	0	0
	コクシジオイデス症	0	0	0	0	0	0	0	0
	サル痘	0	0	0	0	0	0	0	0
	ジカウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	重症熱性血小板減少症候群 (SFTS)	0	0	0	0	0	0	1	1
	腎症候性出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	西部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	ダニ媒介脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	炭疽	0	0	0	0	0	0	0	0
	チクングニア熱	0	0	0	0	0	0	1	1
	つつが虫病	0	0	0	0	0	0	25	27
	デング熱	0	0	0	0	0	0	3	5
	東部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ (H5N1、H7N9を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0
	ニパウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	日本紅斑熱	0	0	0	0	0	0	2	2
	日本脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハンタウイルス肺症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	Bウイルス病	0	0	0	0	0	0	0	0
	鼻疽	0	0	0	0	0	0	0	0
	ブルセラ症	0	0	0	0	0	0	0	0
	ベネゼエラウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	ヘンドラウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	発疹チフス	0	0	0	0	0	0	0	0
ボツリヌス症	0	0	0	0	0	0	0	0	
マラリア	0	0	0	0	0	0	0	2	
野兔病	0	0	0	0	0	0	0	0	
ライム病	0	0	0	0	0	0	0	0	
リッサウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	
リフトバレー熱	0	0	0	0	0	0	0	0	
類鼻疽	0	0	0	0	0	0	0	0	
レジオネラ症	0	0	1	0	0	0	37	54	
レプトスピラ症	0	0	0	0	0	0	0	0	
ロッキー山紅斑熱	0	0	0	0	0	0	0	0	

全数把握対象疾患 (続き) (過去5週の動き)

(患者発生数)

分類	疾病名	岩手県					全国		
		(週) 50	51	52	1	2	累計	2	累計
五類感染症	アメーバ赤痢	0	0	1	0	1	1	16	20
	ウイルス性肝炎 (A型肝炎及びE型肝炎を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	0	0	1	1	0	1	31	46
	急性弛緩性麻痺	0	0	0	0	0	0	0	0
	急性脳炎 (ウエストナイル脳炎及び日本脳炎を除く)	0	0	0	0	0	0	23	48
	クリプトスポリジウム症	0	0	0	0	0	0	0	0
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	0	0	0	0	0	0
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	0	0	0	2	2	20	36
	後天性免疫不全症候群	0	0	0	0	0	0	9	11
	ジアルジア症	0	0	0	0	0	0	0	0
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	0	0	0	0	0	0	15	28
	侵襲性髄膜炎菌感染症	0	0	0	0	0	0	1	2
	侵襲性肺炎球菌感染症	0	0	0	1	0	1	79	137
	水痘 (入院例)	0	0	0	0	0	0	8	12
	先天性風しん症候群	0	0	0	0	0	0	1	1
	梅毒	0	0	0	0	0	0	66	77
	播種性クリプトコックス症	0	0	1	0	0	0	0	2
	破傷風	0	0	0	0	0	0	2	3
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	1
百日咳	2	2	0	0	3	3	139	159	
風しん	0	0	0	0	0	0	9	11	
麻しん	0	0	0	0	0	0	1	2	
薬剤耐性アシネトバクター感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	

今注目の感染症

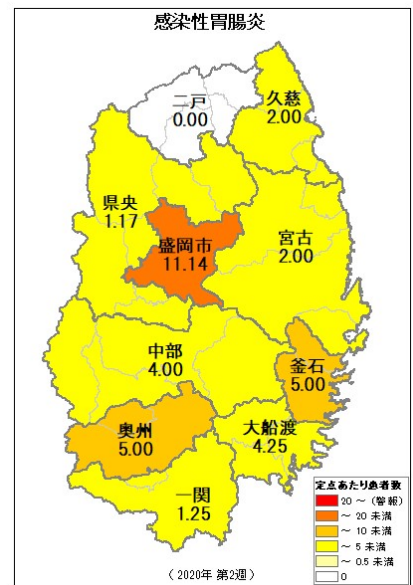
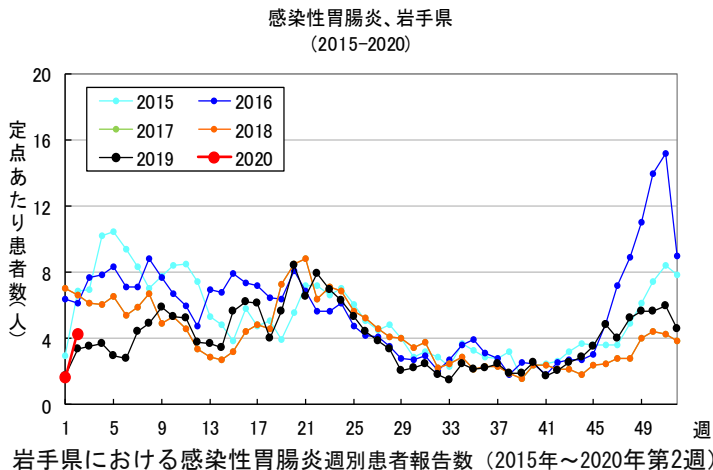
感染性胃腸炎

感染性胃腸炎は細菌やウイルス、寄生虫など多種多様な原因によっておこる胃腸炎の総称です。毎年秋から冬にかけて流行し、その原因はノロウイルスやロタウイルス等のウイルスが大部分を占めています。近年では、流行の前半ではノロウイルスが、後半ではロタウイルスが患者から多く検出されています。

例年、感染性胃腸炎の報告数は、12月～2月にかけてにピークを迎えますので、今後の発生の動向に注意が必要です

【参考】

- ・ノロウイルスに関するQ&A (厚生労働省)
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/shokuhin/syokuchu/kanren/yobou/040204-1.html
- ・感染性胃腸炎とは (国立感染症研究所)
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansenohanashi/383-intestinal-intro.html>



第2週の保健所管内別の状況

※国土交通省国土政策局「H29年1月1日時点国土数値情報 (行政区域データ)」をもとに岩手県が編集・加工した。
 ※この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の 数値地図 (国土基本情報) 電子国土基本図 (地図情報) を使用した。(承認番号 平29情使、第675号)

今注目の感染症（つづき）

インフルエンザ

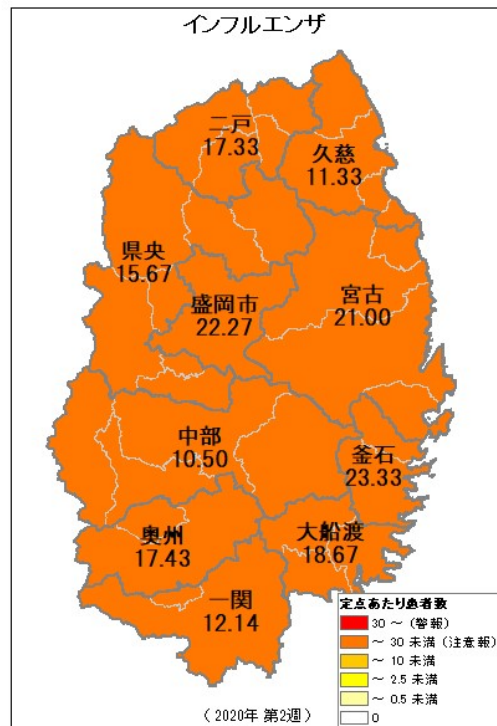
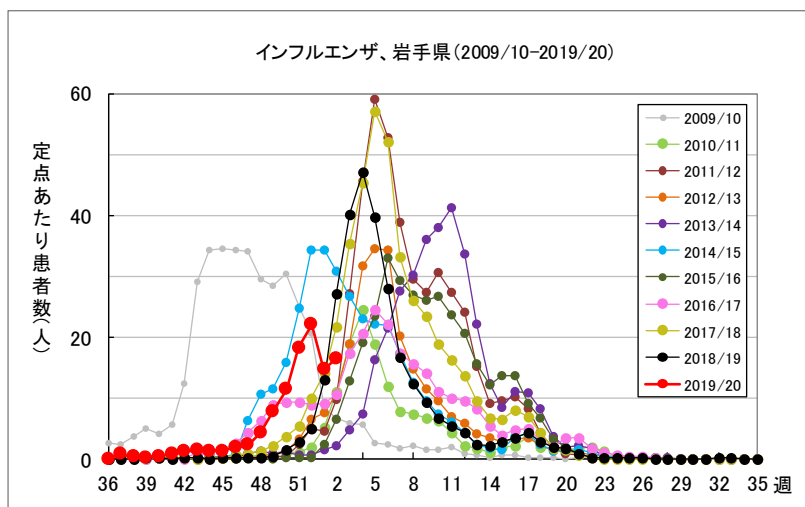
インフルエンザは、インフルエンザウイルスを病原体とする急性の呼吸器感染症で、毎年世界中で流行がみられます。潜伏期間は1日～3日程で、38℃以上の発熱、頭痛、筋肉痛、関節痛などの症状が突然現れ、鼻水や咳などの呼吸器症状が続きます。

岩手県では、例年、11月下旬から12月上旬頃に発生が始まり、1月から3月頃に患者数が増加します。今シーズンは第42週に流行入りし、第50週には季節性インフルエンザでは過去10年で2番目に早く注意報が発令されました。患者は小中学生以下が7割以上を占め、県環境保健研究センターで実施したウイルス検査ではA（H1N1）pdm09亜型が検出されています。

主な感染経路は咳やくしゃみなどによる飛沫感染と、飛沫の付着物に触れた手指などを介した接触感染です。予防には、咳エチケット（有症者自身がマスクを着用する、咳やくしゃみの際はティッシュやハンカチで口や鼻をおさえる）による飛沫感染対策と、手洗いによる接触感染対策の他、ワクチン接種が効果的です。ワクチンによる予防効果が現れるまでには2週間程度かかるため、早めの接種が勧められます。接種を希望される方は事前に医療機関にお問い合わせください。

【参考】

- ・インフルエンザとは（国立感染症研究所）
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/219-about-flu.html>
- ・インフルエンザ ～総合ページ～（厚生労働省）
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou/kekkaku-kansenshou/infulenza/index.html
- ・インフルエンザ ～疫学情報～（国立感染症研究所）
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/diseases/a/flu.html>



第2週の保健所管内別の状況

※国土交通省国土政策局「H29年1月1日時点国土数値情報（行政区域データ）」をもとに岩手県が編集・加工した。
※この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図（国土基本情報）電子国土基本図（地図情報）」を使用した。（承認番号 平29情使、第675号）

※2009/2010シーズンは新型インフルエンザ

今注目の感染症（つづき）

風しん

風しんは、風しんウイルスによって引き起こされる、発熱、発疹、リンパ節の腫脹を特徴とする急性の発疹性感染症です。風しんウイルスは、患者の飛沫（唾液のしぶき）などによりヒトからヒトへ感染します。潜伏期間は2週間程度で、発疹が出る前後1週間位がヒトへの感染力があるとされています。風しんに免疫を持たない妊婦の方が妊娠第20週頃までに感染すると、「先天性風しん症候群」という目や心臓、耳などに障害を持つ子供が生まれる可能性があり、妊婦への感染を防止することが重要です。

全国では、2018年第30週以降、関東地方で報告数が大幅に増加し、2018年の累積報告数は2,946人と、全国流行があった2013年（14,348人）に次いで2番目に多い報告数となりました。2020年第1週は、男性1人の報告がありました。2019年は2,306人が報告され、男性の報告数（1,804人）が女性の報告数（502人）の約3.6倍となっており、今回の流行は、風しんの抗体を保有していない30~50代の男性で感染が拡大しているとみられます。

岩手県では、全数把握疾患となった2008年以降、2020年第2週までに23人が報告されています。全国流行があった2013年には9人の報告がありました。

予防にはワクチン接種が最も効果的です。2回の定期予防接種（1歳児と小学校入学前1年間）を徹底しましょう。また、2021年度末までの期間に限り、これまで風しんの定期接種を受ける機会のなかった昭和37年4月2日から昭和54年4月1日生まれの男性（現在39~56歳）が定期予防接種の対象者として追加されました（図3）。また、妊婦への感染を防止するため、予防接種歴や抗体陽性が確認できない「妊婦の夫、子どもや同居家族」、「妊娠希望者や妊娠の可能性が高い女性」の方は、任意で予防接種を受けることが推奨されます。

【参考】・風疹とは（国立感染症研究所）

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/430-rubella-intro.html>

・風疹急増に関する緊急情報：2020年1月8日現在（国立感染症研究所）

<https://www.niid.go.jp/niid/images/epi/rubella/2020/rubella200108.pdf>

・風しんの追加的対策について（厚生労働省）

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou/kekkaku-kansenshou/rubella/index_00001.html

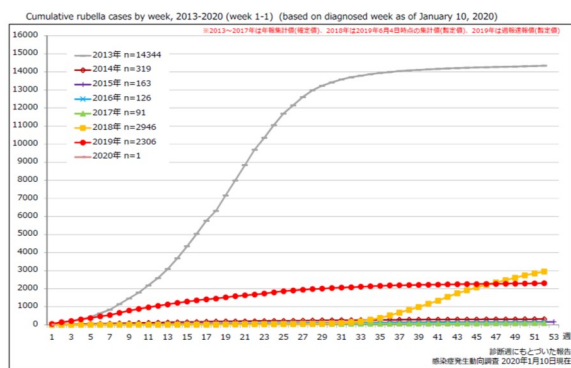


図1 全国における風しん累積報告数の推移（2013~2020年第1週）（国立感染症研究所HPより）

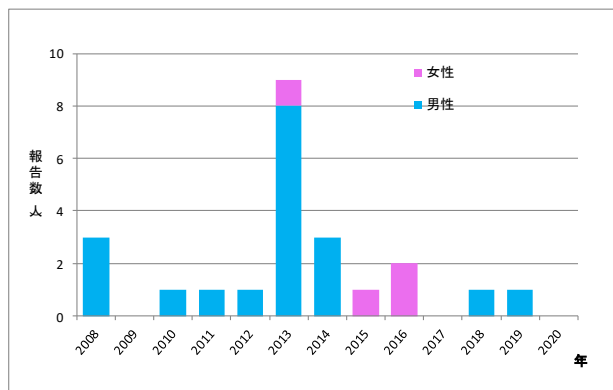
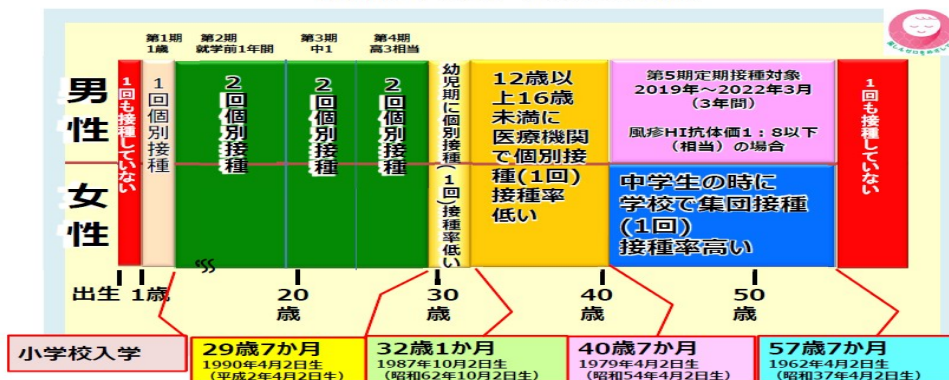


図2 岩手県における年別・性別風しん報告数（2008~2020年第2週）

図3

風疹含有ワクチンの定期予防接種制度と年齢の関係（令和元（2019）年11月1日時点）



集団感染情報

○感染性胃腸炎の集団発生について

- ・滝沢市内の保育所（園児131名、職員40名）
1月7日（火）から1月10日（金）にかけて、園児15名、職員1名に症状（嘔吐、下痢等）
有症者8名からノロウイルスを検出
- ・遠野市内の保育所（園児97名、職員24名）
1月7日（火）から1月13日（月）にかけて、園児16名に症状（嘔吐、下痢等）
有症者6名からノロウイルスを検出
- ・盛岡市内の保育園（園児126名、職員36名）
1月9日（木）から1月15日（水）にかけて、園児17名に症状（嘔吐、下痢等）
有症者3名からノロウイルスを検出
- ・盛岡市内の保育園（園児179名、職員46名）
1月11日（土）から1月16日（木）にかけて、園児12名に症状（嘔吐、下痢、発熱、腹痛等）
有症者5名からノロウイルスを検出

○インフルエンザによる学校等の休業措置について（1月11日から1月16日発表分）

- ・岩手県 5件
- ・盛岡市 0件

詳細は岩手県医療政策室のホームページを御覧ください。

<https://www.pref.iwate.jp/kurashikankyou/iryuu/kenkou/influ/1023628.html>

病原体検出情報

- ・インフルエンザの患者の咽頭ぬぐい液から、インフルエンザウイルスA(H1N1)pdm09亜型を12件、インフルエンザウイルスA(H3N3)亜型を1件検出しました。

医療機関からの情報

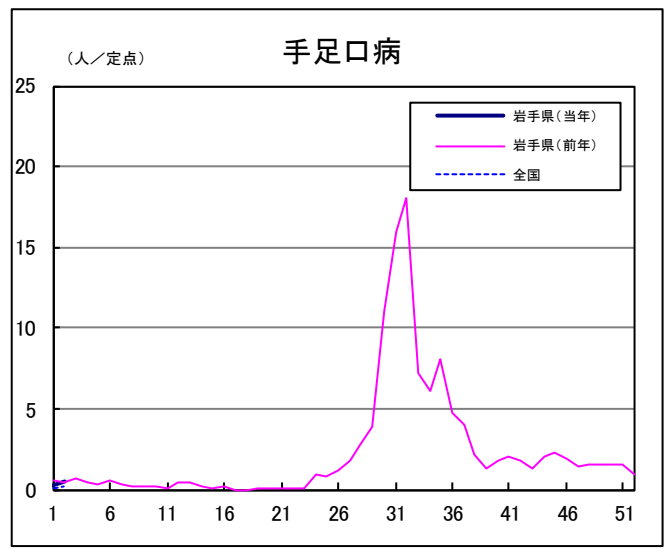
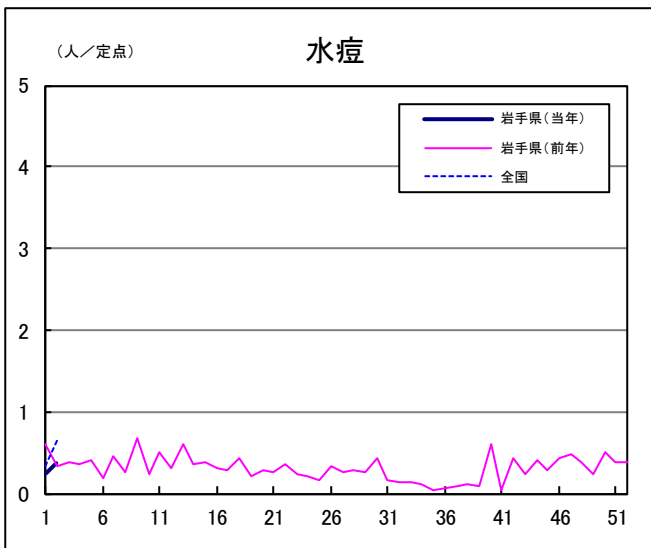
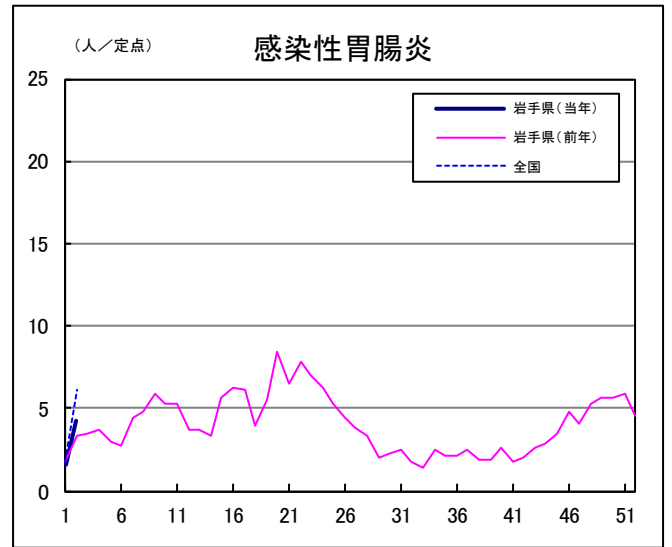
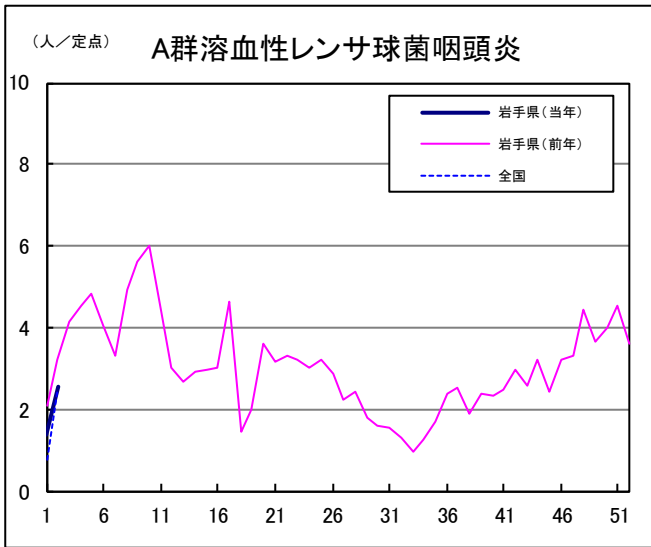
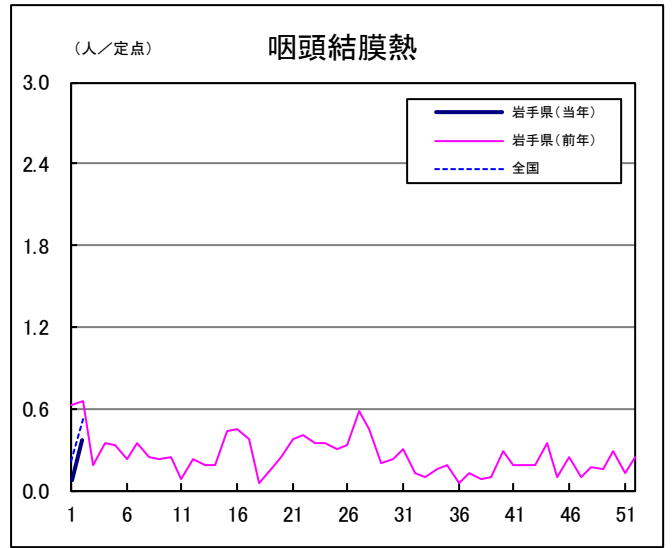
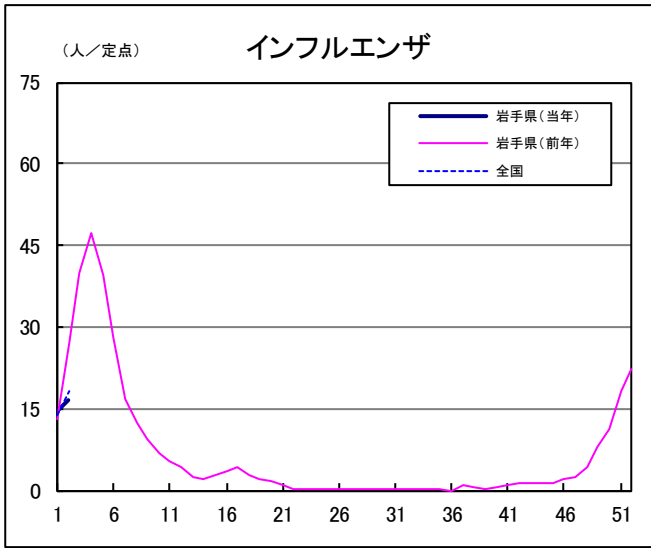
- ・この週には医療機関からの情報はありません。

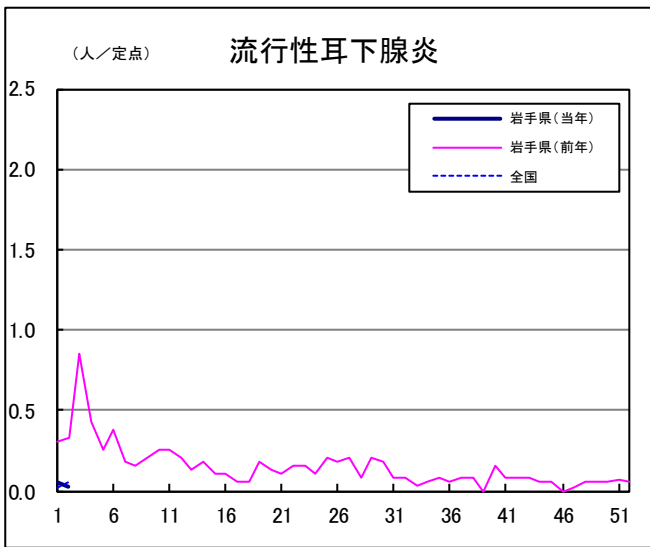
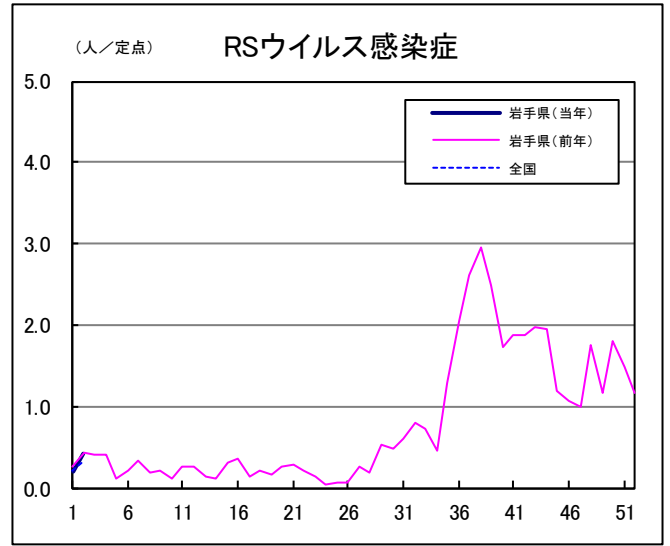
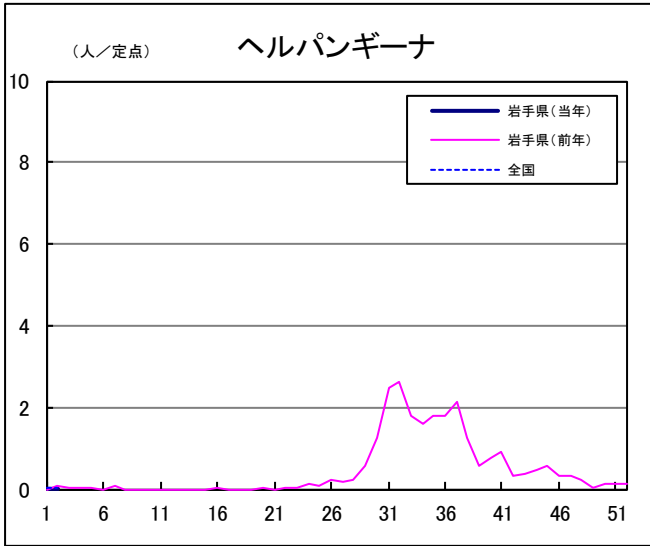
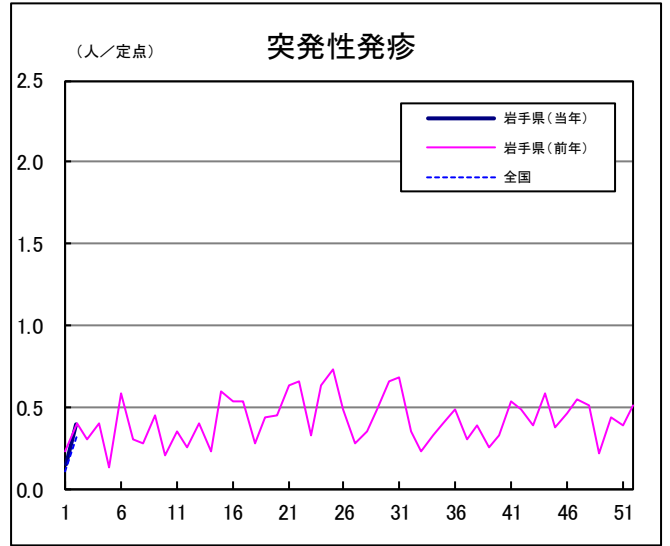
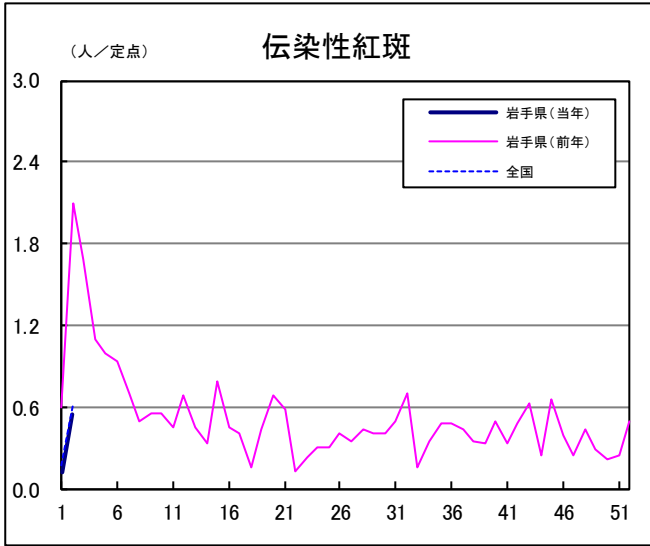
Q & A

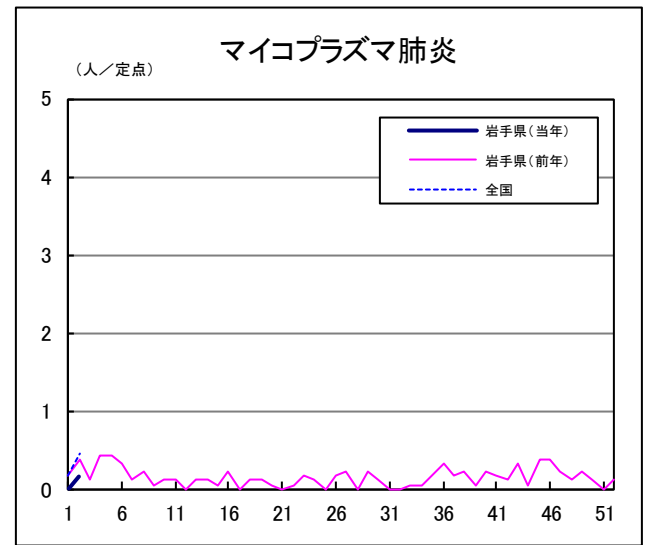
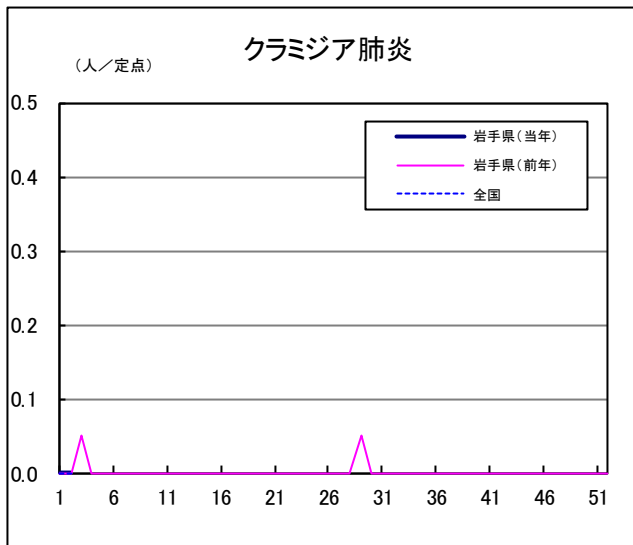
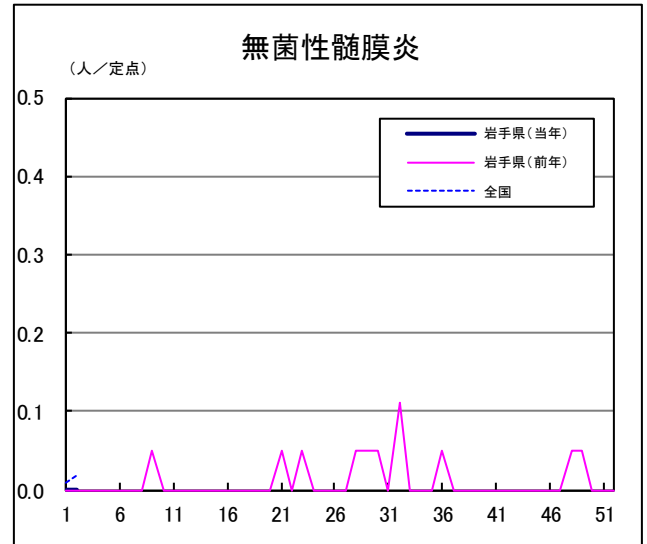
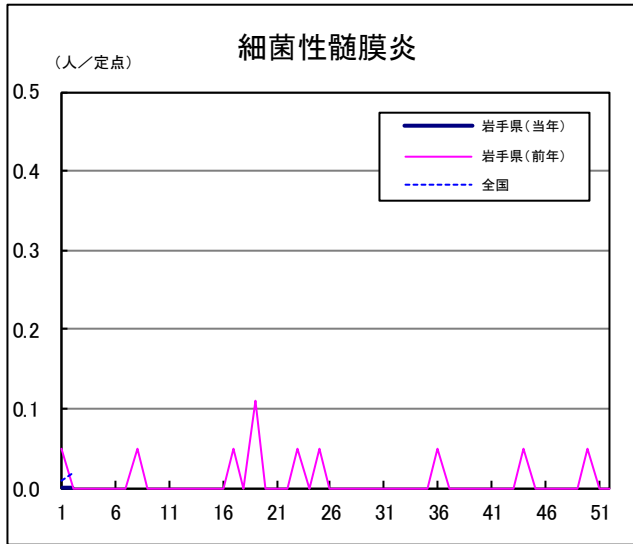
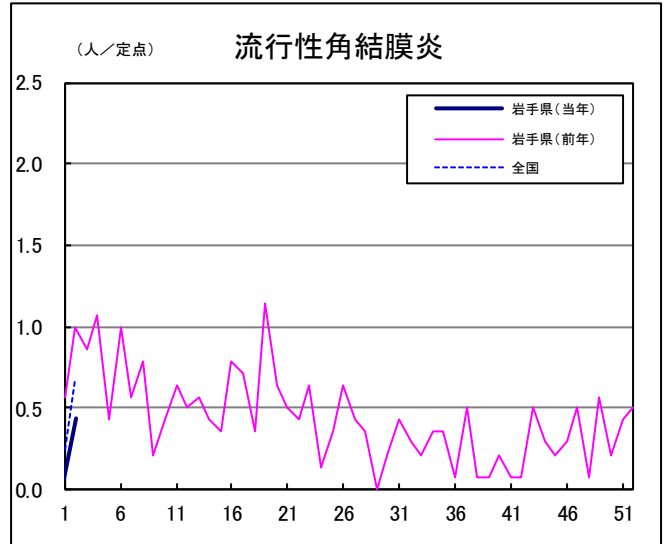
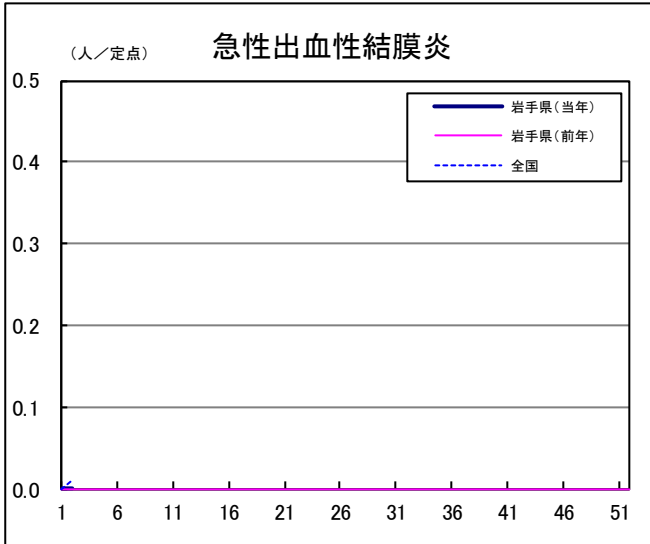
読者の皆様からのご質問にはこの欄でお答えします。

医療機関からの情報や読者の皆様からのご質問は下記の宛先までお寄せください。
岩手県感染症情報センター（岩手県環境保健研究センター保健科学部内）
〒020-0857 岩手県盛岡市北飯岡1-11-16
TEL:019-656-5669（直通） FAX:019-656-5667
E-mail: CC0019@pref.iwate.jp

疾病別グラフ (定点あたり患者数の推移)







定点医療機関の数

地区	定点種別	インフル エンザ	小児科 定点	眼科定点	基幹定点
岩手県		66	41	14	19
盛岡市		11	7	3	4
県央		9	6	2	1
中部		12	7	2	4
奥州		7	4	1	2
一関		7	4	1	2
大船渡		6	4	1	1
釜石		3	2	1	1
宮古		5	3	1	1
久慈		3	2	1	1
二戸		3	2	1	2



無料です!!

岩手の感染症情報を毎週メールでお届けする

「岩手県感染症情報ウィークリーマガジン」を配信しています。

配信の登録は以下のURLからお願いします。

<http://www2.pref.iwate.jp/~hp1353/kansen/mailmagazine.html>

岩手県感染症週報 令和2年第2週 令和2年1月18日発行

監修：岩手県感染症発生動向調査委員会

発行：岩手県環境保健研究センター
岩手県保健福祉部医療政策室

事務局：岩手県感染症情報センター
(岩手県環境保健研究センター保健科学部内)

〒020-0857 岩手県盛岡市北飯岡1-11-16

TEL:019-656-5669 (直通) FAX:019-656-5667

E-mail: CC0019@pref.iwate.jp

URL: <http://www2.pref.iwate.jp/~hp1353/kansen/>

<岩手県感染症情報センター>

<https://www.pref.iwate.jp/soshiki/hofuku/1016013.html>

<岩手県保健福祉部医療政策室>